

口腔感染症学入門（浜田信城）

Introduction to Oral Infectious Diseases (Nobushiro Hamada)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 微生物感染学
- ③ 口腔感染症
- ④ 歯周病
- ⑤ う蝕

関連する学位授与方針

①

関連する教育実施方針

①

授業概要

口腔常在細菌により発症する口腔感染症であるう蝕や歯周病のメカニズムと宿主の防御応答を理解する。口腔領域を中心とした感染と免疫について十分に理解することができるように細菌の構造とともにヒトと微生物の関わりについて講義を行う。また、壮年期以降の成人で罹患率の高い慢性歯周炎の原因である偏性嫌気性グラム陰性細菌 *Porphyromonas gingivalis* について最新の知見を講義する。さらに、微生物学および免疫学的研究について最新の論文を題材に講義を行う。

授業科目の学修目標

口腔には、多くの微生物が存在する。口腔感染症に関わる微生物を特定し、その病原因子を明らかにすることは疾患の発症と進展を未然に防ぐことに重要である。本科目では、口腔感染症原因微生物の病原因子の知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 微生物学の意義と口腔感染症学の基本
 - ・微生物学の歴史と研究技術の進展 2コマ 浜田信城
 - ・微生物学の基本 8コマ 浜田信城
- ② 日本細菌学会における倫理規範と検体の取り扱い方の基本 4コマ 浜田信城
- ③ 口腔感染症の研究論
 - ・細菌の病原微生物学 4コマ 浜田信城
 - ・細菌感染と歯周組織応答 2コマ 浜田信城
 - ・細菌と生体の応答 4コマ 浜田信城
 - ・細菌の病原因子と生体との関わり 4コマ 浜田信城
 - ・歯周病の理論 2コマ 浜田信城

教科書および参考書

口腔微生物学－感染と免疫－ 第7版(学建書院) 浜田信城 他編著
戸田新細菌学 (南山堂) 吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信 編
Oral Microbiology and Immunology (American Society for Microbiology): Lamont et al.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯周病原細菌に関連する論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 微生物学の意義を理解し口腔疾患を説明できる。
- ② 細菌学研究領域における倫理規範を理解し応用することができる。
- ③ 微生物学の研究論を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	0%	30%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・レポートは、口腔感染症の研究論の5項目について課題を提出する。6%×5回=30%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

口腔感染症学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。